

# 經濟論叢

第六卷 第二號 (通卷第三十二號) 大正七年二月發行

## 論說

### 鹽專賣ノ不當及其改造

神戸 正雄

緒言 (一) 本研究ノ目的 (二) 説述ノ順序

第一段 現行課税主義ニヨル鹽專賣ノ不當、其一 鹽課税ノ不當、其二 鹽課税方法トシテノ專賣ノ不當、

第二段 鹽專賣ノ改造、其一 鹽自由交通主義ノ不當、其二 公益主義ニヨル鹽專賣ノ制定

結論 (本文ノ要旨)

## 緒言

我邦ニハ鹽專賣 (註一) 制度ガアル。ソシテ政府ハ是ヨリ若干ノ純收入ヲ擧ゲ國家財政ノ一助トシテ居ル。ツマリ課税主義ノ鹽專賣ガ日本ニ行ハレテ居ル。固ヨリ此鹽ノ專賣又ハ租税ハ日本ニ限ツタモノデハナクテ、餘程古クヨリ且ツ頗ル廣ク他ニモ行ハルル所デアルケレトモ (註二)、兎モ

論說 鹽專賣ノ不當及其改造

第六卷 (第二號) 一 一五三

角實際一般ニハ最不入望デアアル(註三)ニ就キテハ、之ヲ何トカシナクテハナラヌ。之ヲ全廢スルカ、改造スルカ孰レカヲ計ラナクレバナラヌ。予ハ以前ニハ之ガ全廢并ニ自由交通主義ヲ勸メタガ、今日ハ段々考究シタ結果、ムシロ專賣制ヲ維持シテタダ其經營方針ヲ公益主義ニ改メ、出來ルダケ安ク鹽ヲ供給スルコトトスルノヲ最選ブベシトスルニ至ツタ。其次第ヲ茲ニ公表シテ實際家ノ參考ニ供シヤウト思フ。特ニ今回發表サレタル政府ノ改稅案ニ於テ通行稅石油稅ノ廢止(註四)ヲ爲シツツ、其ヨリモ一層不都合ナル鹽專賣ニ手ヲ着ケルコトヲ等閑ニ附シタル政府ノ不注意ヲ咎メンガ爲メニモ茲ニ此文ヲ作ル者デアアル。

(註一) 日本テハ專賣ト使ヒ慣レテ居ル。全ク官用語ニ徹フノテアルガ、外國テハムシロ獨占(Monopol, Monopole, Monopoly)ガ普通デアリ、且ツ此方ガ意義ナ一層真ク表ハス。尤モ古クハ特權收入(Regie)トイフ詞ガ用井ラレ(例之らう、ろつしあ<sup>1)</sup>)。或ハ特權(Vorrecht)テフ詞ヲ用ユルモアル(例之うんぶえんばつは、匿名政治家<sup>2)</sup>或ハ舊時ノテRegal、新時代ノテMonopolト使ヒ分ケルモアリ(例之えーべるひ、へつける<sup>3)</sup>)。RegalトMonopolトチ全ク別ノ物トシテ、鹽ノ其テMonopolニ數フルモアル(例之すたいん<sup>4)</sup>)。尙ホ稀ニハ日本ノ專賣ニ當ル Alleinhandelヲ用ユルモアル(例之びーるざつ<sup>5)</sup>)。

(註二) 此鹽ノ專賣又ハ稅ガ古ク且ツ一般的也トイフコトハ長ク人ノ説ク所デアアルガ、試ミニ其ニツキ若干ノ説明チ加フルニ、最古クハ鹽稅ガ夙ニしりあニテあれきさんでるノ後繼者ノ下ニ存シタ<sup>6)</sup>。又鹽ノ專賣制ノ古ク羅馬ニ於テ紀元前五〇六年ニぼるせんトノ戰爭中ニ宣言セラレ、其鹽價ノ引上ガ紀元前二〇六年監察官リびうすまりなとる及くらうぢうすノ下ニ羅馬市外ニ國庫利益ノ爲メニ行ハレタ<sup>7)</sup>。佛國テハ一三四年ニふりつづぶ四世ニヨリ鹽稅ガ採用サレ、獨逸テハはいんりつひ四世ノ時ニ鹽專賣<sup>8)</sup>ガ生シタ<sup>9)</sup>。而して現今鹽(一)稅ノ行ハルルハ佛、獨、國、(二)專賣ノ行ハルルハ獨、瑞西、伊、土、希せるびや、るめにや、もんでれぐる、ちゆにす、英領印度、支、日、(三)稅關ノミ行ハルルハ露、西、葡、丁、諾威、米、に

1) Rau, Grundsätze d. Fw. 5 Aufl. I. S. 252. Roscher, System d. Fw. 5 Aufl. II. S. 36.

2) Umpfenbach, Fw. S. 381. Staatsmann a. D., Fw. S. 128.

3) Eheberg, Fw. 9 Aufl. S. 117. Heckel, Lehrbuch d. Fw. II. S. 156.

4) Stein, Lehrbuch d. Fw. 5 Aufl. I. S. 387.

5) Wappeler, Ueber Besondere...

ユー・フ・ア・ン・ゴ・ラ・ン・ド、秘、(四)全ク無税ナルハ英、白、瑞典テアル。<sup>10)</sup>

(註三) ぶあいふあい曰ク、鹽稅ハ學問ヨリシテハ一般ニ否定セラルト、へつけるハ曰ク鹽稅ノ反對ハ實際一般的ナリト、こ

つさへ曰ク鹽專賣ハ常ニ多クノ敵ヲ有ツタト。<sup>11)</sup>

(註四) 日本ノ一九一七年度ノ通行稅收入ハ四、八三八、一九四圓、石油稅收入ハ一、三八四、九七四圓、此ニ口計六、二三三、一

六八圓テアルカラ、此ガ廢止ヲ見合セテ鹽專賣益金ノ八、六〇六、七七六二圓ヲ止メルコトハ左程難事デナイ。(勿論二百四十

萬圓ノ新財源ヲモ要スルケレトモ)<sup>12)</sup>

本問題ヲ説明スルノ順序トシテハ先ツ、一般ニ鹽ニ課稅スルノ當否ヲ明ニシ、次イデ鹽課稅方  
法トシテノ專賣ト固有ノ稅トノ比較ヲ爲シ、以テ課稅主義ニ依ル現行專賣制ノ不當ヲ決定シ、更  
ラニ自由交通主義ノ採ルヘカラザルコトヲ明ニシテ、結局專賣制ヲ改造シテ、之ヲ國民經濟及社  
會政策上ノ目的ニ從フテ經營スルコトトスルノ至當ナルヲ説カウト思フ。

## 第一段 現行課稅主義ニヨル鹽專賣ノ不當

### 其一 鹽課稅ノ不當

關稅ノ外ニ固有ノ稅ニテカ專賣ノ形ニテカ(註五)鹽ニ内國消費稅ヲ課スルコトハ前ニモイフ如  
ク既ニ諸多ノ先例ノアル所カラ、模倣主義的ナル日本ハ後レ馳セニ之ヲ採ツタガ、併シ其ハ誤デ  
アツタ(註六)。此ニ若干ノ辯護理由ハアルガ、其ハ缺點ニ對シテハイフニ足ラヌ。恐ラク是迄ニ

7) Pariou, l. c. p. 97 Pfeiffer, Staatseinnahmen. I. S. 202.

8) He. kel. a. a. O. S. 157, Rau, a. a. O. S. 253. Pfeiffer, a. a. O. S. 202.

9) Pfeiffer, a. a. O. S. 202.

10) Heckel, a. a. O. S. 158-162. Derselbe, Salz und Salzsteuer. (Conrad's Hwb. 3. Aufl. VII. S. 177-8.) Nutti, Principes de science des finances p. 579. Be

行ハレタ消費税中ノ最悪税デアル(註七)。左ニ其長短ヲ擧ゲテ全體上鹽課税ノ不當ヲ明ニシヤウ。

(註五) ばすてーぶるハ曰ク國家獨占ハ商品ノ價格ガ之ニヨリ上ゲラルルダケテハ租税ノ一特別形式ニ外ナラヌ。使用サレタル資本ノ上ノ正常ノ利潤ハ政府ノ經濟的収入ノ一部ヲ成スモ、之ヲ超過スルモノハ疑モナク租税デアルト。<sup>13)</sup> 尙テ日本デハ鹽專賣ニ於テ百斤ニツキ一圓二十九錢ダケ贖價價格ニ附加シテ賣下價格ヲ定ムルカ、少クトモ其ダケハ租税ト見テ可イ。尙ホぶあいふあーニ依ルト管テ英國デハ鹽ノ一ぶつしえゐる十五志ニモ高メラレ、其生産費ノ四十倍ニモ當ル程デアツタト。又ほーリゆーニ依ルト、佛國デハ一七八八年ニ或地方ノ農民ノ中ニハ二百法ノ年收ニ對シ鹽税二十乃至二十五法ヲ貢ヘルモノカアツタト。<sup>14)</sup>

(註六) べるぎうすハ曰ク、此鹽税ハ原則上排斥スヘク、隨ノテ鹽獨占ハ、煙草獨占ノ如クニ新ニ採用スヘキモノデハナイトイフ結論ニ達スルト。<sup>15)</sup>

(註七) につちハ曰ク、凡ヘテノ間接税ノ中テ人民ノ爲メニ最有害ナモノハ鹽税デアルト、うんぶえんばつばハ曰ク、鹽特權ハ殆ンド想像スヘキ最悪ムヘキ財政權デアルト。<sup>16)</sup>

## (一) 鹽課税ノ長所

### (A) 收入上ノ長所

(イ) 多收——鹽ノ需要ガ文明國デハ(註八) 一般的デアリ、且ツ必要的デ而モ代用品ナキガ如キモノデ、隨ツテ之ニ課税ガ行ハレテ高價トナツテモ之ガ消費ヲ節減スルコトノ難イノト(註九)、且又其税ノ徵收ガ後述ノ如ク頗ル容易ナルトヨリシテ、輕イ税率デモ尙ホ可ナリ多クノ收入ヲ擧グルコトガ出來ル。<sup>20)</sup> 特ニ貧ナル國ニテハ此ガ割合ニ多收デアリ、<sup>21)</sup> 假令然ラザルモ一般ニ此ヲモツ

12) The 17th financial and economic annual of Japan.

13) Bastable, Public finance. 3 ed. p. 506.

14) Pfeiffer, a. a. O. S. 201. Beaulieu, l. c. p. 656.

15) Bergius, Grundsätze d. Fw. S. 215.

16) Niitt, l. c. p. 580. Umfenbach, a. a. O. S. 200.

國ガ其不當ヲ感ジツツモ、尙且ツ容易ニ之ヲ廢スルヲ得ヌノハ恰モ此多收ノ爲メデ、他方クライ  
 へバ各國ニ切ナル財政上ノ需要ガアリ、而モ此鹽稅ニ代ルヘキ財源ヲ見附ルコトノ困難ナルガ爲  
 メデアアル。併シ此稅ニハ後ニイフ如キ根本的ノ否定根據ガアリ、隨フテ假令之ヲ課スルニシテモ  
 其ンナニ重ク之ヲ課スベキデナク、既ニ然リトスレバ其レシキノ收入ハ他ニ見附カラヌトイフ程  
 ノコトハナク、否ナ此稅ノ根本的的不當ヲ了解スルナラバ、思ヒ切ツテ此課稅收入ヲ止メルコトト  
 スヘキモノデアアル。

(註八) 尤モ亞非利加ノ内部ニテ并ニ北部西伯利亞ニテハ鹽ヲ食物ニマテノ特別ノ添物トシテ利用セザル人民モアリトイフ。  
 而シテ此ノ如キハ唯ダ特段ナル曹達含有食物ナトルコトニヨリテ健康ヲ損ハザルコトガ出來ルノデアアル。<sup>25)</sup>

(註九) ぶあいふあーハ曰ク、鹽ハ必需品デ、其價格ノ大ナル引上モガ其消費ヲ減退セシメ能ハザルモノデアアルト、べらぎう  
 すハばすちやノ詞ヲ引イテ曰ク、此鹽ハ凡ベテノ地位階級ニ於テ常ニ其價ガ如何ニナルトモ一定不變ノ分量ノ消費サルルモ  
 ノデアアル。此ガ高價トナレバ労働者ガ其必要ナル鹽消費ヲ止メル前ニ、襪ヲ止メ、酒及麵麴ヲモ止  
 メルデアアラウ。鹽價ガ下レバ労働者一層美ナル衣服ヲ纏ヒ一層美キ食物ヲ取ルデアアラウ。併シ一層多クノ鹽ヲ消費スルコ  
 トハナイデアアラウト。<sup>26)</sup>

之ト反對ニ鹽價次第ニテ鹽消費ノ増減スルコトヲ主張スルハらうテ、彼ハ食料トシテノ此ガ享樂ガ或限界ヲモツトモ、經驗  
 ハ此ガ價ノ下落ニ應ジテ増加スルコトヲ示ス。其ハ主トシテ貧民階級ガ此場合ニ一層完全ニ之ヲ消費スルコトトナルカラト  
 イフ。<sup>27)</sup>

(ろ) 收入ノ確實——鹽ノ需要ガ一般的必要的デアリ且ツ之ニ代用品ナキコトガ其課稅收入ノ確實

20) Beaulieu, l. c. p. 653. Rau, a. a. O. S. 252. Roscher, a. a. O. S. 36. Pfeiffer, a. a. O. S. 201. Vocke, Grundzüge d. Fw. S. 68.  
 21) Roscher, a. a. O. S. 39. 22) Conrad, Grundriss. Fw. 2 Aufl. S. 67.  
 23) Cossa, a. a. O. S. 109. Wagner, Fw. 2 Aufl. II. S. 623.  
 24) Cossa, a. a. O. S. 100. Biersack, a. a. O. S. 180. Heckel, a. a. O. S. 156.

トイフコトヲ生ズル。此税ノ一特徴デハアル(註一〇)。

(註一〇) ろつしあトハ鹽特權收入ニツキテ其ガ鹽ノ必要ナルガ爲メニ確實ナル收入ヲ擧グルコトヲ説ク。<sup>28)</sup>

(ハ) 徵收ノ容易——此鹽税ハ鹽ノ生産ガ比較的集中シテ少數ナル大設備ニテ行ハレ、其ガ又特定ノ條件ノ備ハル處ニノミ行ハレテ密造ノ困難ナルノ故ニ、徵收及監督容易ニ其費用亦小ナリトイフ長所ヲモツ。但シ此事ハ日本ノ如ク海水鹽ノ重キ成ス所デハ多少當ノ嫌ガアル。

(B) 負擔上ノ長所

(イ) 負擔ノ小額——鹽ハ本來價ノ割合ニ安キモノデアリ且ツ其各人ノ使用額モ極メテ小ナルモノデアルカラ、假令貧乏之人ニ對シテ見ルトモ其税ハ格別ノ負擔デナイトイフコトガ出來ル(註一一)。

併シ隣ヲ考フルト貧民ニトリテハ此ガ決シテ其ンナニ輕イ負擔デハナク、見様ニヨリテハ可ナリ重イ負擔トイハナケレバナラヌ(註一二)。

(註一一) わぐなトハ嘗テ此税ガ一勞働者家族チ四乃至五馬克又ハ其所得ノ殆ンド一%ガケ負擔セシムルニ止マルモノトシテ其ノ大シメ負擔デナイコトヲ説イヌ。<sup>31)</sup>

(註一二) こんらトビハ曰ク、一年ニ一つえんとされるノ鹽ヲ使用スル勞働者家族ハ獨逸テハ六馬克ノ税ヲ拂フ。此ガ九百馬克ノ所得テハ唯ダ三分二%ニ當ルニ止マル。併シ少クトモ六百馬克ト見積ルヘキ最小活資ヲ控除スレバ既ニ此ガ二%ニ當ル。多人數ノ家族ノ處テハ税額ガ容易ニ三%及其以上ニモ上リ得ルト。日本テハ一人當リ鹽ノ消費二十斤(一家五口ト見テ百斤、即チ壹圓貳拾九錢ノ鹽稅負擔トナルガ、之ヲ細民カラ見ルトスレバ仲々ノ負擔トイハナケレバナラス。

(ロ) 負擔ノ輕感——各人ノ鹽ノ消費額ガ極メテ小ナルモノデアリ、其價モ本來極メテ安キモノ

28) Roscher, a. a. O. S. 36.

29) Vocke, a. a. O. S. 67. Courad, a. a. O. S. 67. Hoffmann, Die Lehre von den Steuern. S. 247.

30) Beaulieu, l. c. p. 653.

31) Walcker, Fw. S. 101.

テ特ニ其使用價値ニ比シテ異常ニ割安ノモノデアリ、之ニ附加サルル税額モ間々格別大イモノデ  
ナク、其ヲ其價ノ中ニ込メテ日々少シツツ出スコトトナルニ過ギザルモノ故ニ、負擔者ニ於テ間  
間氣附カズ、氣附クトモ、極輕易ニ感ズルコトガ出來ルトイフ長所ガアル(註一三)。併シ斯ノ如キ  
コトハ唯ダ幾ラカ此税ヲ宥恕スル理由トナルニ止マリテ、後ニイフ根本的ノ缺點ヲ打消スノ力ハ  
ナイ。

(註一三) ふなつけハ鹽ノ安キコト及其使用量ノ小ナルコトノ爲メ之ニ對スル税ガ輕ク感ゼラルルコトヲ此税ノ重ナル推薦理  
由トスル。さうハ鹽獨占又ハ税ノ辨證理由トシテ獨占利得又ハ租稅收額ガ各人ヨリ全ク小ナル感ズベカラザル額ニテ其買入  
ニ際シテ支拂ハルルコトヲ擧グ。こつさモ亦タ此ガ一タビ國民生活ノ慣習ニ入込メバ、日常ノ消費物ノ價ニ結付クニハ、殆  
ンド注意セザル間ニ拂ハルルコトトナルトイフ。而シテえいへるひハ此税ノ宥恕理由トシテ此税ガ往々ニシテ壓迫スルホド  
ノ高サニ非ルコト、此税ガ其價格ガ其使用價値ニ比シ異常ニ小ナル物體ヲ課スルコトヲ擧グル。<sup>33)</sup>

(は)負擔ノ一般——租稅ニハ負擔ノ一般ノ要求ガアリ、而モ直接税デハ動モスレバ其負擔ガ貧  
民ニ及バヌカラ、此鹽税ノ如ク何人ニモ及ブモノヲ置イテ一般負擔ノ要求ニ應ジヤウ。隨フテ此  
鹽税ガ租稅體系ニ於テ一ノ補完税トナル、又ハ負擔ノ平準的作用ヲ爲ストイフノデアアル(註一四)。  
併シ其直接税ニ於テ貧民ノ負擔ガ免除セララルトスレバ、其ハ其處ニ給付能力ナシトシテ斯クセ  
ラレタモノデ、其處ニ他ノ負擔ヲ課スルノハ不都合デアアル。最小活貧免除ノ趣旨ニモ適ハヌ(註一  
五)。一般負擔トイフコトガ給付能力アル所ニ一般ニ負擔セシムヘシトイフ其眞義ニモ合ハヌ。若

33) Vocke, a. a. O. S. 68. Rau, a. a. O. S. 266. Cossa, a. a. O. S. 109. Eheberg, a. a. O. S. 343-4.

モ道義的ノ根據ヨリ最小活資ニモ輕微ナガラ課税サスルトイフ趣意カライフナラバ、其ハ直接税的ノモノニ於テ爲スヘク、間接税的ノモノニテ爲スヘキデナイ。特ニ今日各國ノ財政ニ於テ貧民ハ直接税コソ或ハ拂ヘネ、酒煙草等ノ内國消費税ヤ、保護關稅的ノ生活必要品税ヲ可ナリ重ク負擔スルカラ、其上ニ鹽税ヲ負擔セシムルノハ過ギテ居ル(註一六)鹽税ノ補充無用デアル。

(註一四) えーべるひハ鹽税宥恕ノ理由トシテ直接税ガ小所得ヲ免除シ、又ハ頗ル寛大ニ負擔セシムル所ニハ鹽税ガ平準課税トシテ最良ク適スルコトヲ學グル。ばすてーぶるハ凡ヘテノ者ノ國家勤務ニ貢獻スル義務ガ承認サル所テハ、穀物及鹽ノ如キ物ノ上ノ税ガ其責任ヲ強行スルニ於テ最容易ナル方法デアラウトイヒ、しえふれーハ凡ヘテノ獨立ニ營利スル人ノ一般的人税ハ理論上ハ恐ラク一層完全ナルモノデアラウ。實際上ニハ併シ鹽税ガ補充税トシテ一層薦ムヘキモノデアルトイフ。<sup>34)</sup>

(註一五) こんらーゴハ曰ク、恰モ漸ク最小活資ヲ得ル者モカ鹽税ニヨリ租税支拂ヲ強制セラレテ、此苛酷ガ排除サレザルコトナ眼中ニ置クヘキデアルト。<sup>35)</sup>

(註一六) こんらーゴハ曰ク、保護關稅的觀察點ヨリ下層社會ノ他ノ消費物ノ負擔ガ避クヘカラザルガ故ニ、鹽税ガ最小給付能力ノ部分ノ人民ノ過重負擔ニ導クト。或ハるつしあーノ如キハ租税能力アル者ノ最下級者ガ既ニ他ノ方法ニテ割合ニ多ク負擔セザル租税體系ニ於テノミ鹽税ガ辯護スヘキモノデアラウトイフガ、實際ニハ文明國テハ鹽税以外ニ貧民ヲモ課スル税ガ多々アルカラ、鹽税ハ彼ニヨルモ辯護サレナイ。

## (二) 鹽課税ノ短所

(A) 負擔上ノ短所——負擔ノ不公平

(イ) 貧者富者ノ間ノ不公平——鹽ハ一般人ニ必要ナルモノデ何人モ略ボ同一額ヲ消費スル傾ガ<sup>36)</sup>

34) Ebeberg, a. a. O. S. 344. Bastable, l. c. p. 510. Schäffle, a. a. O. S. 273.

35) Conrad, a. a. O. S. 66.

36) Conrad, a. a. O. S. 67.

37) Roscher, a. a. O. S. 37.

38) Cossa, a. a. O. S. 109. Beaulieu, l. c. p. 653. Conrad, a. a. O. S. 66.



アルケレトモ、實際ニハ鹽ヲ鹽トシテ取ルコトハ富者ノ方ガ貧者ヨリモ少イ傾ガ大イ(註一七)。其ハ富者ハ其ノ取ル所ノ一層豐富ナル食料ヨリ自ラ鹽分ヲ取り入レルノミナラズ、<sup>39)</sup> 特ニ彼等ガ肉ヲ一層多く取ルガ爲メニモ菜食ヲ主トスル貧民ヨリモ一層鹽ヲ取ルコト少キノ傾ガアリ。<sup>40)</sup> 貧民ガ肉ヲ取ルトシテモ新鮮ナルモノヲ取ルコト難ク、自ラ鹽漬ノ肉ヲ取ルコト多キガ爲メニモ鹽ヲ多ク消費スルコトナリ其反對ニ富者ハ新鮮ナル肉ヲ取ルコトニヨリテ鹽ノ消費ガ一層少クテ濟ミ、加之富者ハ鹽以外ノ雜多ナル味料ヲ用ユルノ餘裕アルノニ、貧者ハ殆ト全ク鹽ニヨリテ味ヲ取ラナケレバナラヌ境遇ニアルコトニヨツテモ富者ハ鹽ヲ一層少シク消費シテ濟ムコトトナリ、更ラニ往々ニシテ貧民ハ所謂貧乏子澤山デ家族員ノ富者ヨリモ多人數ナルガ爲メニモ鹽ヲ多ク消費セザルヲ得ザルコトガアルカラデアル。<sup>43)</sup> 然レバ鹽稅ハ屢々諸多ノ學者ヨリ人頭稅也トカ人頭稅のノモノ也トカイハレタケレトモ、<sup>44)</sup> 實際ハ人頭稅ヨリモ苛イ稅デ、貧民稅トイフヘク、貧民ノ方ニ重キ反對累進稅<sup>45)</sup>トイフヘキデアル。デ此レ程貧民苛メノ稅ハナク、又此レ程公正原則ニ反スル稅モナイ。<sup>46)</sup> 此稅ハ此點ニ於テ根本的ニ存立條件ヲ缺イテ居ル。

(註一七) こんらージニ依ルニ西澤ニ於テ從僕ノ食事ニハ三十封度ノ鹽、兵士ノ其ニハ二十一封度ノ鹽ヲ平均需要トスルノニ、富メル家族ニテハ人頭割十封度ヲ超エナイト。<sup>47)</sup>

或ハ直接稅ガ貧民ヲ免除スルコトニヨリテ或度マテ鹽稅ノ右ノ不公平ヲ補償スルトカ、<sup>48)</sup> 或ハ特

50) Hoffmann, a. a. O. S. 258. Staatsmann a. D., a. a. O. S. 130.

40) Roscher, a. a. O. S. 39. Nitti, l. c. p. 579. Conrad, a. a. O. S. 65.

41) Roscher, a. a. O. S. 39. Beaulieu, l. c. p. 653.

42) Bergius, a. a. O. S. 215. Hoffmann, a. a. O. S. 248. 43) Pfeiffer, a. a. O. S. 204.

44) Hoffmann, a. a. O. S. 266. Uhufoebach, a. a. O. S. 233. Conrad, a. a. O. S. 65.

ニ所得稅ガ富者ニ累進課稅ヲ爲シ、極貧者ノ小所得ヲ最小活資トシテ免除スルトキニ此ニ鹽稅ノ補償ガアルトイフカ、併シ此等ハ凡ヘテ鹽稅ノ補償デハナクテ、其レ自身ニ理由アツテ行ハレテ居ルモノニ過ギヌ。彼等ノ免稅ハ其處ニ給付能力ナシトシテ免稅レレタルモノデアアル。ムシロ所得稅ニ於テ最小活資ヲ免除シツツ、鹽稅ニ於テ最小活資ニモ課稅スルノハ其前者ノ精神ヲ破ルモノトイフヘキデアアル。同精神ヨリハ鹽稅ヲ止メナクレバナラス。或ハ又鹽稅ガ貧民ヲ負擔セシメテモ其額ハ小イモノニ過キストカ(註一八)、他方ニ之ヨリ得タル收入ガ貧民ノ幸福ヲ増進スヘキ事業ニ向ケラルルコトニヨリテ埋合セガ得ラルルトモイフガ(註一九)、其負擔ハ貧民ニ取リテハ見様ニヨリ決シテ小イモノデハナク、(註二〇)給付能力ノ殆ト之ナキ者ニマデ此負擔ヲ課スルノハ良クナイ。又他方ニ彼等貧民ノ爲メニ使用セラルトイフヲ以テ租稅ヲ辨解スルノハ租稅ノ性質ヲ誤解スルモノデアアル。彼等ノ幸福増進施設ハ其必要アリテ爲サルコトデ、彼等ノ負擔アルト否トヲ問ハズ、之ト離レテ決定サルヘキモノデ、其ヲ此處ニ持出スノハ當ヲ得ヌ。

(註一八) 註一一參照

(註一九) わぐな一ハ管テ鹽、石油及火酒稅ガ勞働保險制度ヘノ國家貢獻ニ向ケラルルコトヲ以テ勞働者ヲ慰メントシヌ。<sup>46)</sup>

(註二〇) 註五及註一一參照

(ろ) 都會人田舍人ノ間ノ不公平——田舍ノ農民ハ其食物ノ性質上都會人ヨリモ一層多ク鹽ヲ消費シ、隨テ一層多クノ鹽稅ヲ負擔スル傾ガアル。<sup>51)</sup> 此ニモ鹽稅ノ負擔ノ不公平ガアル。勿論其ハ前

45) Parieu, l. c. p. 193.

47) Conrad, a. a. O. S. 65.

49) Beaulieu, l. c. p. 661.

51) Nitti, l. c. p. 580. Beaulieu, l. c. p. 661.

46) Pfeiffer, a. a. O. S. 204.

48) Parieu, l. c. p. 115.

50) Walcker, a. a. O. S. 101.

ノ貧者富者ノ間ノ關係ホドニ大シタコトデハアルマイガ。

或ハ之ニ對シテハ都會人ハ田舎人ヨリモ砂糖珈琲ヲ多ク消費シ隨フテ砂糖珈琲稅ヲ一層多ク負擔スルコトニヨリテ埋合セガ附イテ居ルトカ、又田舎人ハ日本ナラバ例之自家用醬油稅ニヨリテ都會人ヨリモ醬油稅ノ負擔ガ輕キコトヲ得、佛國等デハ入市稅ヲ免レ、自家用酒ニツキ免稅ノ特典ヲ受クルコトニヨリテ埋合ガツクトモイフガ、砂糖ニ稅ノアルノハ砂糖ニ課稅スヘキ理由アツテ然ルモノデ、鹽トノ關係ニ於テ之ヲ定メタノデハナイ。鹽稅ガ不當ナル故ニ止メラレタカラトテ、砂糖稅ノ止メラルヘキモノデナイガ如ク、砂糖稅ノ存否ニ拘ラズ鹽ハ鹽トシテ課稅スヘキモノデハナイ。自家用酒自家用醬油ノ特典入市稅ノ存否ノ如キモ鹽課稅トハ別箇ニ決定セラルヘキモノデアリ、鹽ノ課稅ハ之トハ離レテ批評スヘキデアル。

(ハ) 僕婢多使者ト少使者トノ間ノ不公平——僕婢ヲ多ク使用スル者特ニ職業者ハ鹽稅ヲ其然ラザル者ヨリモ一層多ク負擔スルノ不公平ガアル。其モ唯ダ家庭用トシテ多ク使フダケナレバ、奢侈の使用ノ意味ニテ多使者重課至當也トモイハルルガ、職業ノ性質上多クノ使用人ヲ使ハナケレバナラヌ者而モ慣習上雇主ニ於テ之ニ食事ヲ給スル者ニ於テハ其ノ然ラザル者ニ比シテ割合ニ大ナル負擔ヲ爲スコトトナル(註二)。其ハ氣ノ毒デアル。勿論同業者間ノ競争上ノ困難ヲ生ズルトイフコトニツキ大シタル心配ハナイガ、兎モ角國民ノ一部ノ者ト他部ノ者トノ間ニ於ケル負擔ノ

52) Beaulieu, l. c. p. 661.

53) Beaulieu, l. c. p. 661.

公平ハ失ハルル。

(註二二)はふまんハ曰ク、嚴禁有ガ一層有刀ニ其糶酒ヲ營スバ營ムホド即チ愈々多ク僱婢日雇労働者ヲ養ヘバ養フホド愈々多ク鹽ヲ消費スルコトトナル。都市ニテハ旅船及多クノ僱婢ヲ養フヘキ營業者ガ類似ノ關係ニ立ツト、尤モ農民ノ間テハ雇主ノ處ニテ雇人ノ食事ヲ供スル慣習ガ今モ尙ホ行ハルルノニ、商工業ニテハ段々労働者使用人ガ各百ニテ食事ヲ賄フノが多クナリツツアル。テ其處カラ見テ大體此上記ノ關係ハ農民對商工業者關係トモイヘル。

(乙)鹽産地方人ト鹽不産地方人トノ間ノ不公平——課税上鹽價ヲ全國同一ニスルガ如キ方法ノ採ラルルコトガアルガ、其ハ管理ノ容易トイフコト、<sup>55)</sup>鹽價不同制ノ場合ニ於ケル限界地方ノ鹽ノ密賣ヲ除クヲ得ルコト、<sup>56)</sup>國內産地ヨリ遠カルモ此制度ナケレバ外國産地ヨリ安ク買入ルヲ得タル者ノ利益ヲ保護スルコト(註二三)等カラ來テ居ルガ、此ハ産地人ニイハセルト其天與ノ利益ヲ人爲的ニ奪フモノデ不公平也トイフノデアル。<sup>57)</sup>併シ見様ニヨリテハ此人爲的手段ニヨツテ國民生活ノ公平ヲ打立ツルモノトモ辨解サレ得ル。孰レニセヨ此ハ課税方法ニヨルコトデ、鹽稅其モノノ非難デハナイ。

(註二三)尤モ此問題ハ鹽專賣制ノ協會ニ生ズル特別ノ事項デアル。らうハ曰ク、國內産地ヨリ遠ク距レル地方ハ *remote* ノ生ジナカツタ場合ニハ往々ニシテ外國ヨリシテ一層安ク鹽ヲ輸入スルヲ得タノニ、今彼等二人爲的の制度ヨリ生ズル一層大ナル運搬費ヲ負ハシムルノハ不當デアラツト、匿名政治家モ亦曰ク、一地方ノ鹽似テ内地ノ鹽田ヨリ遠カルノ故ニ高メルコトハ不正デアアル。何トナレバ彼ガ鹽ヲ其最近キ處ニ外國ノ鹽田ヨリ買取ルコトヲ得タルヘキデアアルカラト。<sup>58)</sup>

(B) 社會上ノ短所

54) Hoffmann, a. a. O. S. 257-8.  
 55) Rau, a. a. O. S. 256.  
 56) Rau, a. a. O. S. 256. Staatsmann a. D., a. a. O. S. 129.  
 57) Beaulieu, l. c. p. 634.  
 58) Rau, a. a. O. S. 256. Staatsmann a. D., a. a. O. S. 129.

(イ) 衛生上ノ損害——既ニ國民一般ガ必要品トシテ鹽ヲ消費シ特ニ貧民ガ富者ヨリモ一層多クヲ消費シ而カモ其ガ彼等貧民ニトリテハ可ナリ大ナル支出デアル以上ハ、之ニ對スルノ課稅ハ勞ヒ彼等ノ鹽ノ消費ヲ節減セシメテ、其營養上ノ損害ヲ齎ラシ、國家存立ノ基礎ヲ危フスルコトトモナラザルヲ得ヌ。特ニ日本人ガ外國人ヨリモ一層多クノ鹽ヲ消費スルニ於テ(註二三)鹽稅ハ此點ニ於テ日本ニトリテハ一層有害デアル。或ハ鹽ノ如キモノハ多少高クナツテモ消費ヲ減ズルコトニハナラヌトモイハルルガ(註二四)、併シ貧民タル勞働者ハ之ヲ賃金ノ昂上ニ歸セシムルコト必スシモ容易デナク(註二五)、結局鹽以外ノ生活方便ヲ減縮スルコトニヨリテ矢張り彼等ノ健康ヲ不良ニスルコトヲ思ハナケレバナラヌ。

(註二三) 各國一人當リ鹽ノ消費額<sup>60)</sup>

日本人	二〇・〇 <sup>斤</sup>	米	一九・三 <sup>斤</sup>	英人	一九・〇
佛人	一六・〇	獨人	一五・〇	支人	一五・〇
露人	一四・六 <sup>61)</sup>	伊人	一一・一	印度人	一〇・一

日本ニ於ケル鹽ノ用途ハ(%)<sup>61)</sup>

漬物用	・二九七	飼料製造用	・〇一一	選種用	・〇〇二	其他用	・〇六六
醬油製造用	・二八一	七五八(全消費ノ四分ノ三)	肥料用	・〇〇三	計	・二四二	
味噌製造用	・二八〇		鑛業用	・〇〇一			
漁獲摺藏用	・〇八八						
輸移出用	・〇三三	家畜用	・〇一〇				
工業用	・〇二五	獸皮保存用	・〇〇三				

論說 鹽販賣ノ不當及其改造

第六卷 (第二號 一三) 一六五

59) Cossa, a. a. O. S. 109.  
 60) 中井氏鹽業通覽 194.  
 61) 同上 192-3.

(註四) 。

らんらー曰ク、鹽ノ騰貴ガ健康ヲ害スルコトナリ得ルトイハルルガ、食鹽ニ在テハ各人が其ヲ節シテ餘リ儘カナ食スルコトトナルノヲ假定スルコトハ出来ヌ。何トナレバ其價ガ尙ホ頗ル低イカラト、尙ホ註九參照、

(註五)

らうハ曰ク、賃金ニ於テハ鹽ノ支出ノ小ナルコトノ爲メニ(鹽價ノ高クナレルガ爲メニ賃金ヲ高クシテ其理合セテ得ルノ)效果ハ最小イ。非勞働員ノ平均ヲ越ヘタル數ヲ有テ又ハ其他ノ壓迫サレタル地位ニ在ル勞働者家族ハ賃金ニ於テ賤價ヲ受取ラナイ。鹽ノ安キ場合ニ於ケル一層大ナル其消費ハ其高クナレル場合ニハ制限サレバナラヌコトヲ示スト。<sup>62)</sup>

(ろ)人口上ノ損害——植稅ガアリ此ガ高イトキハ食民ノ生活ヲ一層困難ナラシメテ、多少人口制限ヲ行ハシムルコトトモナリ得ル。其結果ハ國民ノ發展上國家ノ維持上ニモ望マシカラザルコトデアル。勿論此ハ大シテ著シイコトハナカラウガ、兎モ角一ノ傾向デアアル。

(C)經濟上ノ短所——盛稅ハ又農業(肥料鹽ノ爲メ)牧畜(飼料鹽ノ爲メ)漁業(魚ノ鹽漬用ノ爲メ)鑛山業及諸多ノ工業就中化學工業特ニ發達ヲ阻碍スル。特ニ日本ノ立場トシテ考フル

ト海産漁業ノ發達ハ重大デアルガ(註二六)、其ノ爲メニハ此鹽價ヲ高カラシメテハナラヌ。又今ヤ發達ノ緒ニ着ケル化學工業ハ之ヲ尙一層發達セシメナケレバナラヌガ、其ニハ其基礎工業タル曹達工業ノ爲メニ原料ノ鹽ノ價ヲ下ケナケレバナラヌ。成程鹽課稅ノ下ニモ而シテ特ニ日本ノ專賣制ノ下ニモ或種ノ生産業ニ特典ヲ與エテハ居ルガ、其ハ政府收入保護ノ目的ニ驅ラレテ到底不満足タルヲ免レナイ。<sup>63)</sup>工業デモ漁業デモ鹽ヲ要スルモノニシテ此特典ニ與ラザルモノガ少クナク、而シテ其ガ爲メニ非常ナル損害ヲモ被ツテ居ル(註二七)。且ツ現行ノ特定恩典ニ與カルモノニテモ

62) Conrad, a. a. O. S. 66. 63) Rau, a. a. O. S. 266. 64) Cossa, a. a. O. S. 343. Pfeiffer, a. a. O. S. 203. Umpfenbach, a. a. O. S. 383. Rau, a. a. O. S. 263. Staatsmann a. D., a. a. O. S. 131. 65) Umpfenbach, a. a. O. S. 383. Hoffmann, a. a. O. S. 257. Schäffle, a. a. O. S. 273. Beaulieu, l. c. p. 673-4. Conrad, a. a. O. S. 66.

尙ホ其レダケデハ外國トノ競争上困難ナル地位ニアルモアル。曹達工業ハ當サニ然リデアル(註二八)。斯ク産業ノ發達ニ有害トイフニ於テ、富メル國デハ何トカ財源ヲ他ニ見附ケテ出來ルダケ之ヲ止メヤウトイフ氣運ニアルノハ無理ナラスコトデアル。

(註二六) 日本ニトリ漁業ノ如何ニ重大ナルカハ其年産額一九一五年ニ九四、八三六、〇〇四圓ナルニヨツテモ證スルコトガ出來ル。而シテ此漁業ノ爲メニ糧稅廢止ノ有益ナルコトニツキテハ、しゆふれーハ英國ガ糧稅ヲ其海漁業ノ利益ノ爲メニ全廢シタトイヒ、らうハ英國テハ糧稅ノ廢止以後、其海漁業ガ大ニ振興シタトイフテ居ル。<sup>72)</sup>

(註二七) 例之日本ニテ特別定價ニテ鹽渡スヲ得ル鹽ハ(一)鹽酸、曹達、硫酸曹達、晒粉製造用、(二)石鹼製造用、(三)肥料、選種、家畜用、(四)獸皮保存用、(五)鑛業用、(六)鮭、鱒、鱈、鯨、鰮魚製鹹用ニ限ル。ソシテ工業ニテ鹽ヲ使用スルモノトシテハ、らうーじハ十八種ヲ舉ゲテ居ルホドデ、此特典ニ漏レタルガ多イ。漁業ニテモ例之鹽ノ如キ鹽漬ニシテ滋養價値ヲ維持スルヲ要スルモノナルニ、此特典ヲ得ザル爲メ漁業者水産商人ガ困却スルノミナラズ、一般消費者モ不利ヲ被ムリツツアリトイフ。

(註二八) 曹達工業ノ現在ノ生産費ハ曹達灰一噸ニツキ

外國側		日本側	
食鹽	二噸	〇・五〇	円
其他ノ生産費		二二・〇〇	
小計		二二・五〇	
英國日本間運賃		一五・〇〇	
日本ノ關稅		六・〇〇	
大計		四三・五〇	四二・〇〇

テ今日ノ處デハ日英品ノ差價僅ニ一圓五拾錢ニ止マル。戰後ニナレバ此レ位ノ差價デハ日本ノハ彼國ノ競争ニ堪エルコトハ

67) Cossa, a. a. O. S. 109. Beaulieu, l. c. p. 653. Heckel, a. a. O. S. 156. Eherberg, a. a. O. S. 343. Pfeiffer a. a. O. S. 203. Umpfenbach, a. a. O. S. 383. Rau a. a. O. S. 263. 266. Staatsmann a. D., a. a. O. S. 131. 68) Schäffle, a. a. O. S. 273. 69) Vocke, a. a. O. S. 68. 70) Cossa, a. a. O. S. 109. 71) The 17 th f. a. e. annual of Japan. 72) Schäffle, a. a. O. S. 273. Rau, a.

出來ナイ。之ヲ避クルニハ鹽價ノ引下ト鹽ノ節約方法トヲ要シ、後者ハ技術上一、五噸マテ減スルコトヲ得ル見込ガアリ、鹽價モ曹達業者ヲ食糧輸入指定人ニ指定スルコトニヨリ從來ノ一噸拾圓ヲ七圓五拾錢マテ低減スルヲ得レバ、日本ノ曹達灰一噸ノ價ハ

食糧一噸半七圓五拾錢替 一一・二二五

其他ノ生産費 二二・〇〇

計 三三・二二五

トナリ日英品ノ差價拾圓以上トナルカラ、此處テ漸ク戦後ノ競争ニ堪エラルトイフガ(經濟調査會報告中ノ要旨)、其レモ單ニ日本ニ於テ競争ニ堪エラルトルダケテ、世界市場ニ出テテハ英國ノ二二・五〇ニ對スル日本ノ三三・二二五テハマダ競争ナド思ヒモ寄ラヌ。尙曹達工業ノ爲メニ曹達灰ノ關稅引上ノ說モアルガ、其ハ之ヲ使用スル他工業ノ利益ノ爲メニ反對サレナシレバナラス。

### 其二 鹽課稅方法トシテノ專賣ノ不當

鹽課稅ノ不當ナルコトハ上記ノ如クデアルガ、同シク鹽ニ課稅スルトシテ固有ノ租稅ニ依ル方ガ專賣ニ依ルヨリモ勝ル。鹽專賣ニハ即チ鹽課稅ノ缺點ノ外ニ專賣ノ缺點ヲモ有ツ愈々以テ鹽專賣不當トイハナケレバナラス。先ツ鹽專賣ノ鹽稅ト對比シテノ缺點ヲ擧グルト、

#### (一) 鹽專賣ノ缺點

(A) 當務者ノ競争心麻痺——隨フテ生産費ヲ多ク要セシメ、國民ヲシテ割高ノ物ヲ消費セザルヲ得ザラシメ、且ツ品質ノ改良ヲ怠リ販路ノ擴張特ニ外國輸出上ノ努力ヲ忽ニスルコトトナル。尤モ日本ノ如ク商業獨占ノミ行ハルル場合ニハ此非難ハ夫ノ生産及商業獨占ノ行ハルル場合ヨリモ少

74) Cossa, a. a. O. S. 109. Pfeiffer, a. a. O. S. 203. 75) Hock, Die öffentlichen Abgaben und Schulden. S. 156. Schäffle, a. a. O. S. 273. 76) Pfeiffer, a. a. O. S. 203. Hock, a. a. O. S. 156. Staatsmann a. D., a. a. O. S. 130. Bergius, a. a. O. S. 217. Umpfenbach, a. a. O. S. 382. 77) Hock, a. a. O. S. 156. Staatsmann a. D., a. a. O. S. 130. 78) Hock, a. a. O. S. 156. 79) Conrad



カルヘキデアアルガ、而モ尙ホ自由競争ノ下ニ於ケルニ比シテハ斯カル憾アルヲ免レナイ。但ダ官營ノ下ニハ純民營ノ下ニ於ケルガ如ク營利ノ爲メニ餘リニ劣悪ナル物ヲ供給スルコトハ之ナキヲ得ル。<sup>80)</sup>

(B) 煩累面倒——勿論鹽稅ノ下ニモ監督ノ面倒ハアルガ、其ニテハ主トシテ生産者ノ處ニテ面倒ガ存スルノミデアアル。然ルニ專賣デハ生産者ガ厄介ナル拘束ヲ受クルノミナラズ、消費者モ種々ナル不便ヲ被ラナケレバナラヌ(註二九)。

(註二九) 例之日本デモ消費者ガ買入レニ於テ非常ノ面倒ヲ感シテ居ル。甚シキハ鹽ノ購入強制(Compulsion)ノ行ハレタコトガアル。其ハ十八世紀中普ニテふりーざりつひ二世ノトキ特ニ國境地方ニ於ケル消費者ノ外國鹽密輸ヲ防止スル爲メ各家計ノ人數ト其家畜數トニ應シテ消費スヘキ鹽ノ額ヲ定メ(其額ハ九歳以上ノ各人四めんつえん即十三封度半、一牛又ハ十羊ニツキ二めんつえん)各人ハ之ガ購入ヲ證明スル帳簿ヲ所持シ、一年ノ終ニ法定ノ額ヲ買ハザリシコトノ實證サルル者ニ罰金ヲ課シタルモノデアアル。此ガ一八一六年マテ行ハレタ。<sup>82)</sup>

(二) 鹽專賣ヲ實行スヘキ條件ノ缺乏——一體課稅方法トシテ專賣ノ選マルルノハ其物ノ品質ノ多様ナルコト其製造ノ分散スルコトノ條件ノ存スル場合デアアルガ、鹽ハ品質ノ差異モ格別大デナク、生産モ比較的集中シテ居ルカラ特ニ專賣ヲ薦ムルホドノ理由モナイ。<sup>83)</sup>但ダ其生産法ガ簡易デアアル點ダケカライヘバ專賣(生産)ヲ行フニ便利トイフコトハアル。

80) Schäffle, a. a. O. S. 273.

81) Schäffle, a. a. O. S. 273. Umpfenbach, a. a. O. S. 382. Pfeiffer, a. a. O. S. 203.

82) Rau, a. a. O. S. 254-5. Roscher, a. a. O. S. 37. Conrad, a. a. O. S. 67. Staatsmann a. D., a. a. O. S. 128. Heckle, a. a. O. S. 157. Eheberg, a. a. O. S. 117. Adams, The science of finance. p. 272.

## 第二段 鹽專賣ノ改造

### 其一 擁自由交通主義ノ不當

前段所述ノ如ク鹽專賣ハ不當デアアルガ、然ラバ之ヲ全廢シテ自由交通主義ヲ立テルカトイフト、サウハイカナイ。此自由交通主義ニヨリテハ消費者ハ安キ鹽ヲ使用スルヲ得ルコトニナリ(註三〇)、負擔ハ公平ニナリ、社會上ノ弊害ハ除カレ、鹽ヲ消費スル諸産業ハ發達スルコトニナルガ、併シ鹽ノ生産者ノ損害ヲ生ズルノミナラズ、特ニ危急時ニ於ケル消費者ノ地位ヲ不安ナラシムルノ大缺點ガアル。

(註三〇) しえふれー及えーべるひハ鹽稅又ハ專賣ノ廢止サレタル後ニ其利益ガ鹽價ノ其稅ダケノ低下ニヨツテ消費者ニ及ブヤチ疑フモ、<sup>85)</sup>ふなつけハ此稅ガ鹽ノ自然的價格ニ比シテ高イカラ、之ガ廢止ノ利益ガ消費者ノ利益トナルコト疑フヘカラズトイフ。<sup>86)</sup>我邦ニ就イテ見ルモ此事ガ當ル。

(一) 鹽生産者及鹽田所有者——カライヘバ鹽ノ自由交通主義トナレバ立行カナクナル。今日ハ專賣制ノ下ニ彼等ヲ其高キ賠償價格ニヨリテ保護シテ居ル。デ丁度鹽專賣ハ鹽關稅ノ如キ働ヲ爲シツツアル。尤モ彼等ノ此利益ダケナレバ鹽田ニ賠償金ヲ與ヘテ廢業セシメツツ專賣制ヲ止メルコトニシテモ良イガ、

(二) 鹽消費者——(A)之ヲ自由交通主義ニ依ルコトニスレバ一朝危急時ニ鹽ノ供給ヲ斷タレテ消費者

85) Schäffle, a. a. O. S. 273. Eheberg, a. a. O. S. 344.

86) Vocke, a. a. O. S. 68.

ノ函ルトイフコトガアル。之レアルガ故ニ專賣ヲ維持シ鹽田ヲモ相當ニ維持シナケレバナラヌコトニナル。勿論自由制ニシテ内地ニ鹽田ガ亡ビテモ關東州臺灣朝鮮ノ天日製鹽ノ發達ヲ促スコトニヨリテ十分ニ且ツ安ク供給サルルコトガ出來ル。此等ハ準内地ニ心配ハナイ。一朝國防ガ危急ニ瀕シテ、此等ノ地ト内地トノ連絡ノ危ウクナルトモ、其時ハ恰モ内地自身ノ危ウキ時デアアルカラ、此等ノ地ノ鹽業サヘ發達セシメテ置ケバ良イトイフケレトモ、矢張り此等ノ土地ノダケデハ不安デアツテ、相當ニ内地ニモ出來ルコトニスルコトガ消費ヲ安全ニスル所以デアアル。多少高イ犧牲ヲ拂フテモ專賣ヲ維持シテ此内地鹽田ヲ持續セシムル必要ガアル。(B)又專賣ニヨリテ多少品質ノ餘リニ粗惡有害ナルモノヲ防止スルコトガ出來ルトスレバ、其モ專賣ノ消費者ニ及ホス好果トイフテ良イ。

## 其二 公益主義ニヨル鹽專賣ノ制定

上記ノ如クデアアルカラ鹽專賣ヲ廢止スルノモ生産消費ヲ完全ニ保護スル所以デナク、之ヲ課稅主義ニヨリ經營スルノモ不都合デアルトスレバ、結局公益主義ニヨツテ鹽專賣ヲ維持經營スルノ外ナキコトニナル。

(一)即チ鹽專賣ハ維持スルガ、之ヨリシテ純益ヲ一切擧ゲナイコトニスル。否ナ一步ヲ進メテハ持出シテマデモヤル位ニスル。内地ノ製鹽者ニハ相當ノ賠償價格ヲ拂フガ、政府ヨリ拂下ルニハ其

ト同一又ハ其ヨリモ以下ノ價格ニテスル。勿論保護ヲ要スル産業ニ對シテ此價格ヲ一層安クスルコトモ有益デアアル。何レニセヨ鹽專賣ヲ課稅主義ニヨラズ公益主義即チ生産及社會政策上ノ目的ノ爲メニ行フヘキデアアル。一體專賣ナリトテ課稅主義ニ依ラナケレバナラヌヤウニ考フルノガ間違デアアル。公益主義カラモ行ヒ得ルモノデアリ、本ト本ト鹽ノ如キ種類ノモノニ就キテハ此主義ヲ行フベキモノデアアル。消費物カラ收入ヲ得ヤウトイフナラバムシロ酒煙草砂糖珈琲類ニ就キテ思ヒ切ツテ課稅主義ヲ行フヘキデアアル(註三二)。ソシテ鹽ノ方ハ國庫ガ持出シテマデモ專賣ヲ行フヘキデ、其ハ鹽ノミナラズ、我邦デハ米ニ就テモ斯主義ニ依ルデナケレバ眞ノ國民的幸福ハ保全サレヌト思フ。近キ將來ニ米鹽ニツキ斯ク迄思ヒ切ツタ方策ヲ實行スル財政家ノ現ハレンコトガ最望マシイ。一體鹽專賣ハ其本ヲ究メレバ課稅主義カラ起ツタノデナクテムシロ消費者保護ノ公益主義カラ出タノデアアル。<sup>87)</sup>予ノ提案ハ畢竟スルニ一たび邪道ニ踏迷ヒ永ク生民ヲ苦メタノヲ本ヘ復セシムルニ過ギナイ。

(註三一) わぐな一曰ク消費稅ノ重點ハ益々内外産ノ享樂及利便方便ニ置カルト。<sup>88)</sup>

(二) 尙ホ專賣ニ於テ政府ガ原價ヨリモ安く消費者ニ賣下ル方針ヲ採ル以上ハ、課稅主義ノ行ハル場合ト違ツテ取締ハ全ク簡單ニナルガ、其上ニモ賣買ノ手續ニツキ出來ルダケ生産者消費者ノ利便ヲ計ルヤウニ努ムヘキコトハ言ヲ待タナイ。

87) Adams, l. c. p. 272. Pfeiffer, a. a. O. S. 200-I.

88) Wagner, a. a. O. S. 623.

## 結 論

要之今日日本ニテ鹽ニ關シテ行ハルル課稅主義ノ專賣制ハ不當デアル。諸多ノ重大ナル弊害ガアリ、其利益ハ到底損失ヲ償フニ足ラナイ。然リトテ之ガ廢止、自由交通主義ノ建立ニヨツテモ重大ナル危險ガアル。デ結局公益主義ニヨリテ專賣ヲ維持經營スルノ外ハナイ。併シ斯クテハ今日日本ニ存スル財政收入ヲ増加スルノ必要ニ應スル譯ニ往カズ、却ツテ或更ナル收入ヲモ要スルコトトナルガ、併シ鹽ノ如ク國民生活ニ重大ナル利益アルモノニツイテ其レ位ノ困難ノ爲メニ根本的の大方針ヲ立ツルコトヲ躊躇スルヤウナ意氣地ナシデハ仕樣ガナイ。此大問題ノ爲メニハ財政家ガ徹底シタ思切ツタ政策ヲ實行スルノ勇氣ヲ持ツテ欲シイ。若夫レ之ニ要スル財源ニ至テハ所得稅ノ根本的改造ニセヨ土地増價稅ノ新設ニモヨ酒稅ノ尙一層ノ増課ニセヨ見出サウト思ヘバ譯ハナイヤウニ私ハ考エル。